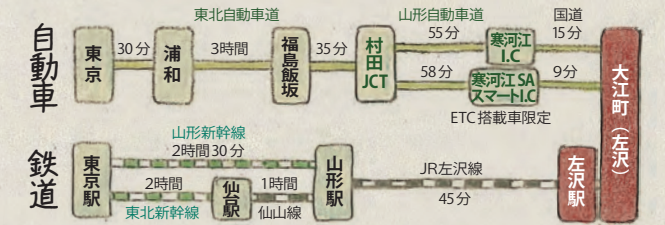
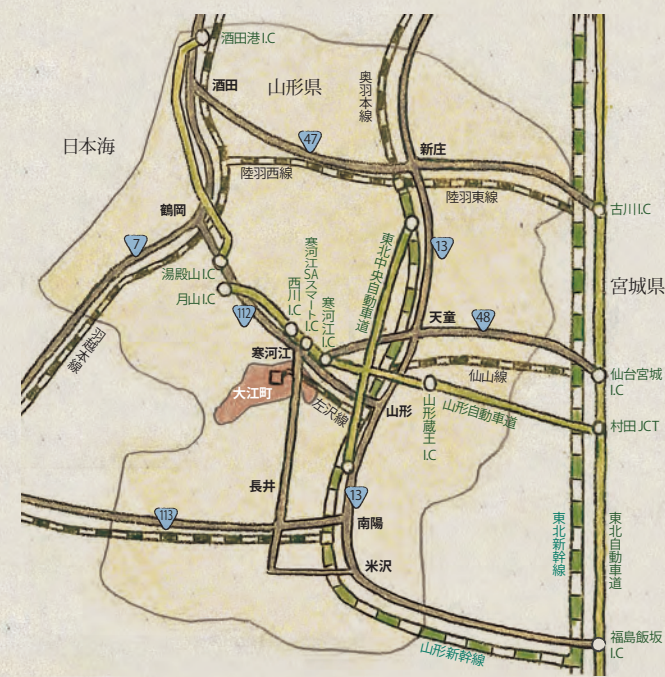


## 大江町への交通アクセス



【制作・発行】  
 大江町教育委員会【左沢文化的景観絵図内町・横町・御免町編作画】志村直愛  
 〒990-1163山形県西村山郡大江町大字本郷丁373-1 TEL:0237-62-3666  
 大江町ホームページ: <http://www.town.ooyamagata.jp/>  
 ※絵図で示した建物は、絵図範囲内に所在する重要な景観の重要な構成要素です。また、記載した建物の建築年代は、所有者等からの聞き取りによります。



表紙・裏表紙のイラストは菊地写真館が所蔵している写真から作画したもので、昭和初期の内町・横町のまちなみ風景。作画：志村直愛

## 町場に残る明治・大正・昭和の面影

近代の発展と生活文化を伝える景観



↑旧最上橋と橋山

元禄期に完成したとされる最上川舟運ルートの物流需要は、明治後半がそのピークともいわれます。近代を迎え、明治16年に最上橋の架橋や、橋に続く道路の整備、あるいは明治34年の奥羽線山形延伸、大正11年の左沢線開業など鉄道路線網の整備発展により陸上交通にその地位を譲っていきました。昭和に入り、鉄道駅周辺の賑わいも増し、昭和15年、鉄筋コンクリート造による最上橋の永久橋化などにより町の近代化は大きく進みました。一方、密集した城下の市街地は度々大火に襲われます。幕末の弘化2年、明治2年、明治39年には年内に3度も火災が記録されています。特に昭和11年の大火では、内町から横町、原町、新町、東町までの450棟を焼失します。この火災後、内町、横町の街路は復興改良され、通り沿いの多くの商家が伝統的な形に昭和モダン風のスタイルを加味したデザインで再建されていきました。一方で焼失を免れた江戸期の古い土蔵が短冊状敷地の奥に残る例も多く見られます。近世の城下の地割りの上に、近代の町並みや災害の爪痕、その上で現代の生活が展開する。まさに様々な歴史が重層する風景が、内町、横町、御免町の文化を伝える景観なのです。



↑横町の敷地奥に並ぶ土蔵

## 城下町に広がる短冊状の地割り

中世～近世の記憶を伝える町並み



↑巨海院金毘羅堂奉納小鵜飼舟絵馬

最上川舟運で栄えた左沢は、街道が集まる陸路交通の結節点でもありました。寒河江方面から橋山の麓を経て左沢の町場につながる原町通りが西に折れる形で延びる内町横町通りは、小漆川城からの延長線上に位置する城下町の東西軸。置賜方面からの街道として天満神社の鍵型に当たる御免町通りが南北軸となる、それぞれ城下町のメインストリートです。通り沿いの町人地は敷地が短冊状に細く割られ、細長い敷地の道沿いに店を構え、奥に向かって住居となる主屋、蔵や工場、作業場、その背後には庭や畑地が続く形式をそれぞれ踏襲しています。城下に広がるこうした町を囲み守るようにして、短冊状の町並みの末端部や背後、あるいは古くからの街道の鉤型の突き当たりや枝道の正面など、町の要となる地点に神社や寺院が配されていることも特徴です。神社は、地域のコミュニティを支えた広い拜殿を手前に、幣殿を挟んで奥に本殿を配する形式、寺院は豪雪に備えた急勾配がもたらす高く大きな屋根を持つ本堂が特徴です。境内や通りに展開する祭りの風景や、水上交通安全祈願にまつわる絵馬や宝剣額などの奉納品類も町場の文化をいまに伝える大切な景観です。



↑大滝山不動尊(波切不動)

## 未来へ贈る、最上川と暮らしの営みの風景

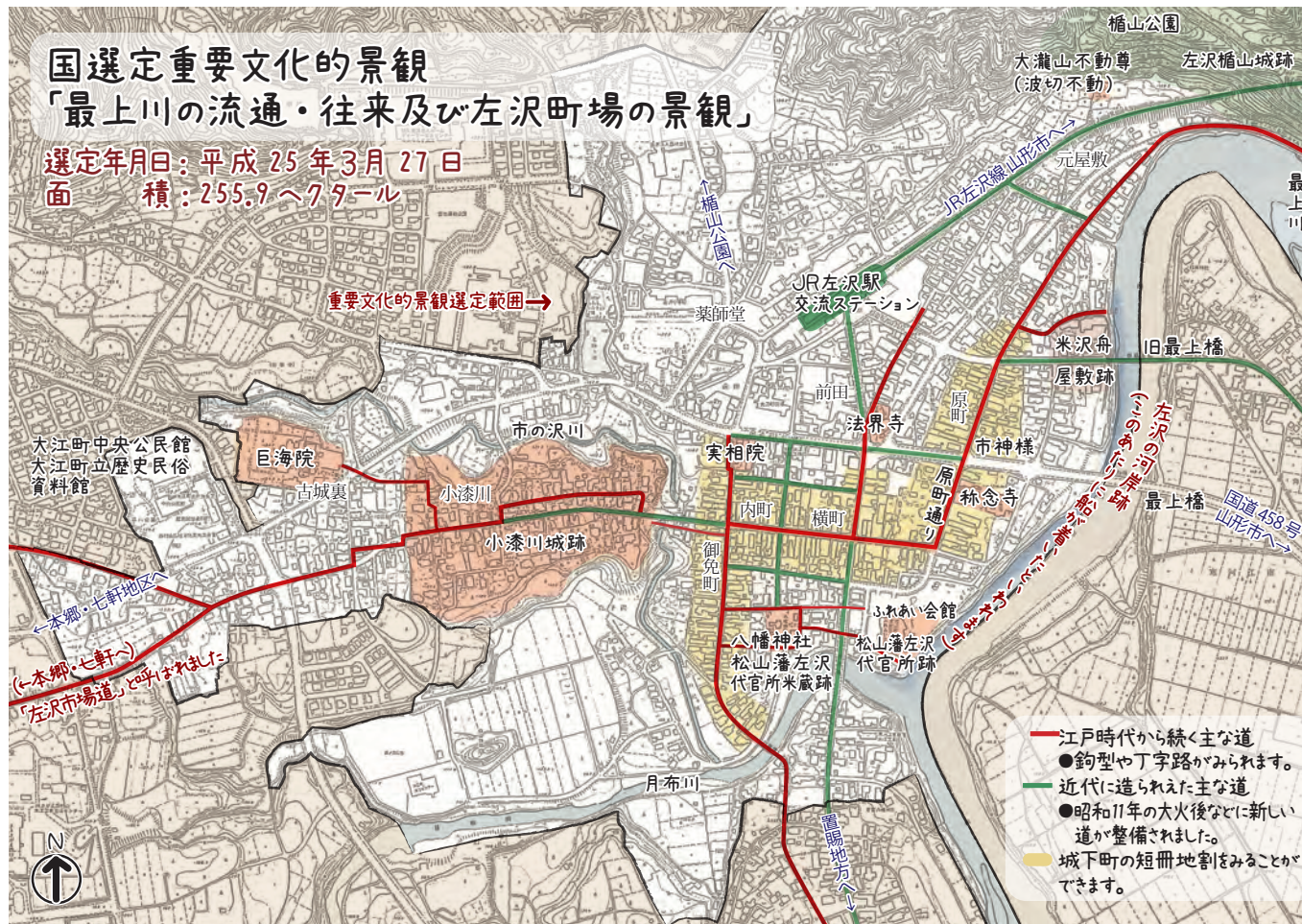
重要文化的景観 最上川の流通・往来及び左沢町場の景観



↑橋山公園から眺めた最上川左沢の町並み ↑現代の初市(横町) ↑市神様(原町) ↑大江の秋まつり(内町・横町)

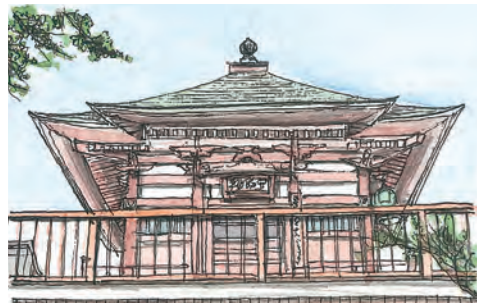
「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」は、左沢の暮らしに根差した文化的景観です。左沢は、五百川峡谷を流れ下った最上川が村山盆地に流れ出る場所にあたります。交通の要衝であった左沢の橋山には、中世、最上川を見下ろすように大規模な山城が築かれました。江戸時代に入ると小漆川に城が移り、今の町並みの骨格となる城下町が整備されます。また、「米沢舟屋敷」が置かれるなど最上川沿いに河岸が展開し、最上川舟運の恩恵を受けながら町の賑わいが創出されました。

今の左沢の景観は、各時代の姿を継承しつつ、時代に合わせた変化を経て形成されました。山城跡に所在する橋山公園からは、橋山の麓で大きく曲がる最上川や段丘上に広がる左沢の町並み、さらに遠く西方に朝日連峰が連なる様子を望むことができます。町場では、江戸時代からの通り沿いに並び建つ土蔵や商店建築、社寺に納められた奉納物、秋まつりや初市といった行事などが、かつて舟運とともに営まれた町の暮らしを伝えていきます。この絵図は、左沢の内町、横町、御免町周辺を描いたものです。東西に延びる内町横町通り、南北に延びる御免町通りは、いずれも江戸時代に小漆川城の城下町として造られた町人地で、商人たちが通り沿いに店を構えました。現在も商店街として往時の賑わいを伝える土蔵や、昭和初期のモダンな店構えなど歴史の風格を感じさせる町並みが見られます。絵図と一緒に3つの町を散策し、歴史を伝える風景を探してみたいかがでしょうか。



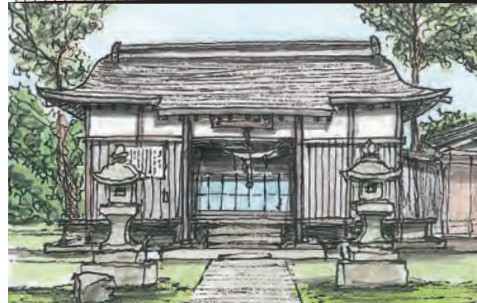
国選定重要文化的景観  
 最上川の流通・往来及び左沢町場の景観  
 内町横町御免町編絵図  
 山形県大江町





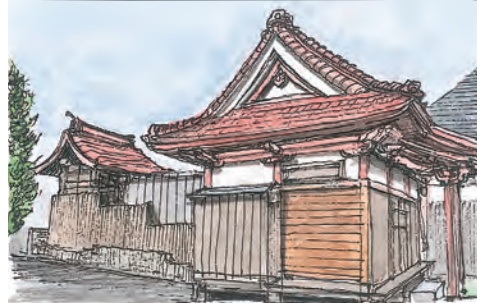
いおうじやくしどう 木造平屋建て 江戸元禄期 1

文安3年に内町の南に創建された天台宗の寺院で、明治2年の大火後に現在地へ移転しました。擬宝珠を載せ、向拝に彫刻を施した薬師堂は元禄年間のもので、大正3年に寒河江市から移築、コンクリート造堂宇の二階に載っています。



しんめいしや 木造平屋建て 2

寛永6年に小湊川城の鬼門の位置に勧請された神社です。十八畳敷きの拝殿の奥には、凝灰岩の基壇の上に神明造りの本殿が載ります。欄干に銅製の擬宝珠、棟木上には千木と鯉木を載せ、棟持柱を持った伝統的な形式を伝えています。



てんまんじんしゃ 木造平屋建て 本殿 寛政6年 3

酒井直次が小湊川城築城時に楯山から移したとされる菅原道真を祀る天神様。雨天神とも呼ばれ、左沢領の天候祈願なども行われました。朱塗りの本殿は彩色彫刻が豊か、手前の拝殿には神輿が天井から釣られて納められています。



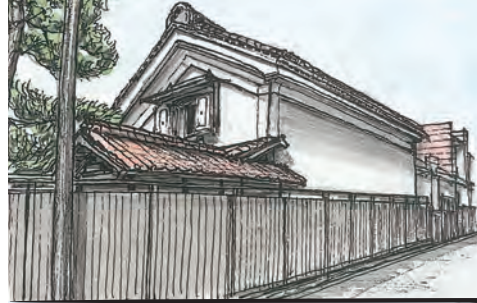
じつそういん 木造平屋建て 4

中世から元禄敷にあったとされる真言宗の寺院です。別当を務めた天満神社に隣接し、神仏混淆時代の名残を伝えています。高い寄棟屋根を持つ本堂は、鳳凰、獅子などの彫刻が施された唐破風の向拝を構えた重厚な造りが特徴です。



きゅうひろくのや 木造2階建て 5

近世には呉服屋を営んでいたと伝わる廣野家は、御免町通り沿いに主屋、蔵が並ぶ配置特性をよく見せています。主屋は昭和大火前後期の伝統的な建築で、高い天井や丸窓、欄間窓などが特徴。奥の土蔵には、地下に炭置場があります。



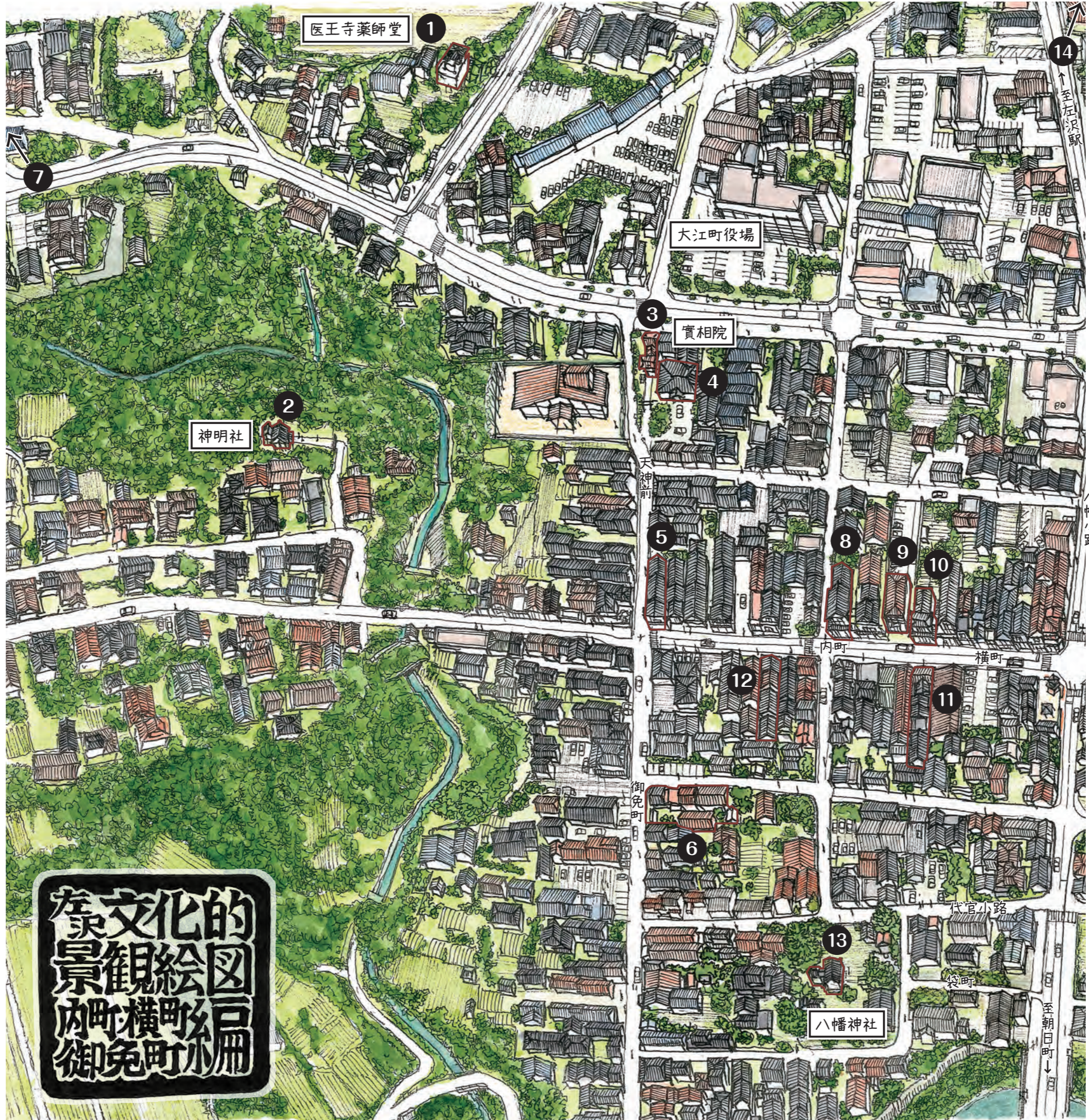
ふじや 座敷蔵: 木造2階建て 明治40年築 6

もともと青苧商いをしていたという富士屋は、江戸時代から菓子製造業を生業とし、御免町通り沿いの短冊状の敷地に店、工場を構えました。明治40年に建てられたという北側の座敷蔵には、昭和11年の大火の焼け跡が残されています。



こかいいん 山門: 木造2階建て 伝 元和8年築 本堂: 木造平屋建て 7

中世からの歴史を伝える古刹で楯山城内、後に麓の元屋敷に所在し、寛永4年に現在の地に移ったとされます。寄棟造の大屋根を載せた本堂、小湊川城の城門を移築したと伝えられる山門など、境内に古い建物が多く残ります。



歴文化的  
景観絵図  
内町横町  
御免町小冊



やまかけ 木造2階建て 昭和2年築 8

江戸初期に山形市山家から移り住んだと伝えられています。江戸末期から明治初期に内町の検断を勤め、明治5年には左沢の初代郵便局長になりました。大火後に建てられた。昭和初期らしいモダンな建具や造作が見られる主屋と蔵が残っています。



きりやか せんこうおかいしん 鉄筋コンクリート造 2階建て 昭和11年頃築 9

羽前長崎銀行左沢支店として大火後の昭和11年頃に竣工した町内に残る貴重な戦前期の鉄筋コンクリート造建築です。警察庁舎や山形相互銀行などを経て、現在は町所有となっています。玄関庇周りなどにモダンな洋風装飾が見られます。



たかとりけ 木造2階建て 昭和12年築 10

江戸時代には青苧の仲買を商いとしていた高取家は、明治16年に7代目が大山屋の屋号で醤油業を始めました。昭和11年の大火で焼失した主屋を翌年再建、費用をかけて頑健な建物としました。主屋裏手には工場や醸造蔵もありました。



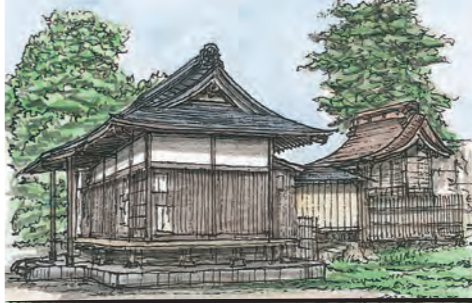
はりきち いちろうしょうてん 木造2階建て 昭和11年頃 11

内町の南側に建つ木造2階建ての商家。かつて大工を営んでいた林家は、明治28年からの八百屋を経て、現在は酒屋を営みます。昭和11年の大火後にできた店の1階には当時のショーケースやホーロー看板が数多く残されています。



たかとりせiryu じどう 木造2階建て 12

大正6年に内町横町通りに店を構えた薬局で、最上川の名をとって「藻江堂」と名付けられました。現在の店舗は60年ほど前に秋田杉を用いて、戦前に建てられた古い店蔵を内包し、外壁を看板建築風に改装したユニークな店構えです。



はちまんじんしゃ 木造平屋建て 明治16年 13

左沢元時により楯山城内に勧請、寛文4年に左沢取付近、明治16年に現在の場所に遷座したと伝わる歴史ある神社です。境内には城下町の鎮守である八幡神社のほか、酒井氏を祀る酒井神社、水上安全祈願の金比羅の石碑もあります。



おきたきやまぶどうそん 木造平屋建て 14

楯山山麓の林の間に位置し、最上川舟運の安全祈願を目的として祀られた不動明王を安置することから別名「波切不動」と呼ばれます。宝剣額が祀られた入母屋造平屋建て十二畳敷きの堂宇は背後の滝を本尊とした拝殿とみられます。